

連載

- 10 世界のキーパーソン
- 11 国内人情報
- 27 Book Reviewing Globe
- 40 テイレスシアスの食卓 ― 河井健司
- 42 大往生考
- 51 西風
- 59 交差点 ― 読者の声・編集者の声



復興支援は名ばかりで、またぞろ役人、政治家と学者が甘い汁を吸う温床に。福島と無縁の理事長を筆頭に、幹部や職員は皆「高給取り」。研究費には全国の「ハイエナ」どもが群がる。浜通り住民は置き去りだ。(110頁)

- 80 金融の世紀 ― 黒木亮
- 88 皇室の風 ― 岩井克己
- 90 日本の科学アラカルト
- 92 新・大学評判記
- 94 本に遇う ― 河谷史夫
- 96 をんな千一夜 ― 石井妙子
- 114 マスコミ業界ばなし
- 98 社会・文化 ● 情報カプセル
- 100 大阪万博「大失敗」にまつしぐら ― 巨額赤字を埋めるのは「国民の血税」
- 102 美術界にまだまだ溢れる「贋作」
- 104 名画と偽物が織りなす欲望の歴史
- 106 中国AI「ディープシーク」は危ない
- 108 嘘まみれ「模倣品」に騙されるな
- 110 日本フィル「九州ツアー」今昔物語 ― 「市民が主催で半世紀の奇跡
- 110 オンラインカジノ「摘発」の不毛 ― 「合法化が世界の潮流
- 110 日本のサンクチュアリ ● シリーズ 606
- 110 福島国際研究教育機構 ― 被災地復興
- 110 度外視の新利権

3 連載「巻頭インタビュー」ブルース・アロンソン ― 世界の「お手本」でなくなった米国

● 特別レポート

6 米国が壊す「世界地図」

― 同盟国も容赦せぬ「力の支配」の時代

12 米ユダヤ・ロビー「主流派」の困惑 ― 「極右化」トランプ政権は制御不能

14 1939年に逆戻りする世界

16 米中露で「国際秩序を決める時代」へ

18 WORLD ● 情報カプセル

22 ロシアの「停戦後」は危うい

■ 国民を襲う「ウクライナ症候群」

24 サウジは「ガザ」を売り飛ばす

■ 堕ちた盟主「二枚舌外交」の裏切り

28 欧州強権諸国で「市民の反乱」 ― 広がる「親ロシア」を阻止できるか

30 ブルネイ「イスラム厳格統治」の醜悪 ― 楽園から恐怖の監獄に転落

32 太平洋の新たな火種「ナツナ海」 ― 中国「海洋侵略」に関係国が苦悩

34 ロシア派兵「北朝鮮軍」の意外な実力

■ 戦死を厭わぬ「勇猛性」の狂気

36 習近平「中国製造2025」の挫折 ― 米国の包囲網突破を狙う「次の手」

38 連載「現代史の言霊」三月の抗議 ― 英国「入頭税」反対暴動（一九〇年）

ディールというより「悪徳商法」。領土でも資源でも、力づくで獲りにいく。米国はもはや民主主義の守護者ではなく「破壊役」。法の支配による国際秩序は後景に退き、東アジアでも驚天動地の事態は起る。(6頁)



44 政治 ● 情報カプセル

46 首相側近の研究

■ 史上稀なる小物「赤沢亮正」の限界

48 亡国の「ぬるま湯国会」

■ 与野党合作「放漫予算」で傾く日本

52 連載「政界スキャン」自民党右派の「新アベガ」症候群

54 コメ騒動の正体は「官製食糧危機」

■ 農水省の度し難き「保身と怠慢」

56 維新「連立与党入り」の本性 ― 「壊し屋」前原は党を割るか

58 連載「罪深きはこの官僚」森光敬子（厚生労働省医政局長） ― 開業医利権永続化予算を主導



少数与党で熟議の国家、からは程遠い俗悪ぶり。人気取り政策を吞ませた野党と、予算成立が叫びつた与党は、双方「多幸感」に浸る始末。ポピュリズムの果ての予算膨張で、将来世代の重荷を積み増す悪政の極み。(48頁)

60 「中国AI」で広がる相場の暗雲 ― バブル「高値圏」で始まった変動

62 原油「大暴落」の近づく足音 ― トランプが「希望」展開

64 東京電力「資金繰り破綻」が目前

■ 原発事故「反省消失」の野放図経営

67 連載「クローズアップ」

北林太郎（農林中金次期理事長） ― 「組織解体」を見据えた軽重事務屋

68 連載「企業研究」日本生命

■ 経団連「会長輩出」の笑止千万

72 トヨタ章男も「日産買収」で秋波

■ 破談後「オフ」続々の不思議

74 経済 ● 情報カプセル

78 連載「地方金融の研究」青森みちのく銀行 ― 「圧倒的首位」でも暗すぎる将来

82 エーザイ「業績好調」は本当か ― 認知症新薬を巡る不都合な真実

84 ニデック永守「自滅」への焦燥 ― 「強引M&A」に走った真因

86 連載「連勝」村上世彰の異様

■ 標的企業が膝を屈する理由

未上場の相互会社なのに「財界総理」を承る厚顔。国内ジリ貧、海外巨額M&Aは先行き不透明で、契約者置き去りの経営は続く。沈みゆく子会社・大樹生命もお先真っ暗。余技にかまけている暇はあるのか。(68頁)

